

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1092600012 | | |
| 法人名 | 株式会社ユニマツそよ風 | | |
| 事業所名 | 草津温泉湯治館そよ風 | | |
| 所在地 | 群馬県吾妻郡草津町大字草津464-702 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年6月13日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構 | | |
| 所在地 | 群馬県前橋市新前橋町13-12 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年11月12日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間を通して、複合施設ならではの他サービスとの合同の行事を開催している。短い夏の期間、散歩や畑で野菜を育て有意義な生活を楽しんで頂き、収穫した野菜で食事を楽しんでいる。
地域交流の関係性が継続できるように機会を多く持っている。
アットホームで温かい関係性を築き、家族と地域の皆さんの意見も参考に、その人らしい生活の実現をモットーにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、温泉街の一角にあり、デイサービス等との複合施設となっている。4項目の理念のなかには、「草津温泉湯治館そよ風」の5つの「あい」が盛り込まれ、話し合い・笑い合い・認め合い・助け合い・分かち合いを掲げ、それらを基に、職員も利用者も明るい雰囲気の中で過ごされている。事業所内においては、かけ流しの温泉で入浴を楽しみ、暖かい日には、職員手づくりのテラスで談話している。地域との交流においては密に保たれ、災害時の支援体制が構築され、あわせて十分な備蓄が保管されている。介護計画他書類関係における管理は、整理整頓され徹底した管理がなされている。管理者は、積極的に職員を研修に参加させ、よりよい介護の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 全体朝礼後の申し送り時に、理念(運営推進委員会にて助言を頂き、職員で作上げたもの)を唱和。尊厳を守りその人らしく楽しい生活が送れるように全職員が理念を念頭におき、介護を実践している。 | 職員で作りあげた理念には、4項目のうちの1つに「草津温泉湯治館そよ風」の5つの「あい」が盛り込まれ、わかりやすいものになっている。朝の申し送り時に唱和し、全職員で共有され介護実践につないでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している | 地域のイベント(道路愛護等)に参加し、関わりを持っている。 事業所のイベントには、案内をポスターなどで掲示し参加を呼びかけ、住民の方々と交流が図れるように努めている。 | グループホームとして、自治会に入会している。イベントには地域の交番の警察官を初め、近隣の多くの方が参加している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 2~3ヶ月に一度家族会を開催し、認知症に関しての理解や支援の方法を話し合っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 年間6回開催し、生活状況や地域交流の報告を行い、出席された方々から地域の情報やご意見を頂き、サービス向上を図っている。 | 2ヶ月毎に行われる運営推進会議には、役場職員・町議会議員・草津交番・消防署員・家族などの参加を得て、活発な意見交換が行われ、徐雪依頼の対応や、すし組合の差し入れ、災害時の協力体制など、多くのサービス向上に活かされている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 出来る限り直接出向き、生活状況の報告や相談を行っている。 出向く事ができない場合は、電話にて情報を共有しご助言を頂くなど、協力関係を築いている。 | 役場の担当者は、運営推進会議に参加の他、相談への対応・協力して頂いている。事故報告に留まらず、利用者の入院時にもその旨を報告する等、市町村との連携が密にとられている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会を設置、毎月話し合いを行っている。 職員が共有し、身体拘束をしないケアを実践している。 | 身体拘束委員会が設置され、センター長も参加して、毎月1回委員会がもたれている。玄関は施錠することなく、暖かい時季は、自由に手作りテラスに出ることができる。研修にも参加し、伝達講習が行われている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員教育を徹底し、具体的な形にて意識付けをし、言葉の使い方などにも注意を払っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 相談があった場合には助言や手続きが迅速に行えるように、関係者や機関の情報を備えている。 実際に1名の方が自立支援事業のサポートを受けている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 事前説明を行い、契約になるまでにグループホームの生活状況を見学していただく。 理解し納得いただいた上で契約にあたっている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族とコミュニケーションを取る機会を設けており、生活状況を報告し共有し合い、意見を頂いている。運営推進会議等においても要望を聞き、運営に反映させている。 | 運営推進会議に多くの家族の参加があり、また、家族会でも意見や要望が出ている。職員は、常に声かけをし意見を引き出している。これまでに、演奏会や楽生園の見学などの希望があり、実行し運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月、グループホーム職員カンファレンスにて意見交換を行い、職員全体で考え、業務に反映している。 | 毎月2ユニットで職員会議を行い、意見交換をしている。主に業務に関する意見が多く、その都度業務に取り入れ、運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 評価は年2回行っている。 評価内容に、研修の参加や資格取得を組み込み、向上心上昇に努め業務がしやすい環境を整えている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 入職時にはオリエンテーションを実施。 担当者(指導者)を付け、”業務を行いながら技術を身に付ける”という体制を取っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者の集まりには出席するように努め、意見交換行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者様の担当職員を決め関わりを密にし、困りごとや不安を聴き、安心してサービス利用開始できる信頼関係も構築できるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の困り事・不安などを把握し、要望を伺い、信頼関係を築いていく。 利用者様が安心して、サービスの開始できるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | サービス導入前に聴き取りを実施し、他のサービス選択肢がある事を伝える。現在の状況で今必要とされているサービスが利用できるよう支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共に暮らす者同士の関係が取れるよう、コミュニケーションを図りながら安心した生活が送れるように関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族に生活状況・身体状況の報告を随時行い共有し合い、ご本人様の状態をご家族に理解していただき、面会を依頼するなどして共に支えていくといった関係を構築している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの方々も数少なくなっていますが、自由に面会に来ていただけるようにしている。無理の無い程度に外出も行い、今までの関係が途切れないようにしている。 | 周囲は温泉街で地域の方は限られているが、デイサービスで来る馴染みの人が立ち寄ることがある。イベントなどがあるときには、近隣の大勢の方が参加している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様個々の特徴や疾病を踏まえ、利用者様同士コミュニケーションが取れるよう職員が間に入るなどして関わり合い、支え合いができる様に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 地域密着の為ご家族に会う事も多く、相談があった際にはお話しを伺い、支援している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 個々の思いを重視し、生活パターンや今までの暮らし方を継続できるように努めている。仮に困難な場合でも利用者様本位になるよう、カンファレンスにて検討し支援している。 | 本人の思いや希望を把握するために、カンファレンスで検討し、本人本位の生活に合わせた生活を送って頂いている。例えば、起床時間や食事に費やす時間など、本人のパターンに合わせ支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴や馴染みの暮らし方などの情報を把握し、これまでのサービス利用の経過に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個人の過ごし方や身体状況などを課題分析し、支援に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 生活内容・身体状況をご家族と共有し、意見等を取り入れケアプランを作成している。現状を踏まえてモニタリングを実施し、プランの見直しを図っている。 | 介護計画に添ってケアの実践を行い、時系列に記録している。記録用紙と連携してモニタリング用紙を常に活用し、実践したケアがどうであったかを記録し、状況が把握できるようになっている。計画作成には、利用者の各担当職員・家族の意見を含め現状に即した計画が作成されている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日の生活状況を細かく介護記録に記し、夕礼時に職員が把握できるように申し送り、共有している。プランの変更が必要な時には、介護記録を参考にしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個人の趣味に合わせ手作業の材料を準備したり、野菜作りを行い、その育てた野菜で調理するなど、ニーズに合った対応と支援をしサービスの多機能化に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 消防・医療機関等の地域資源に協力を頂き、生活面・医療面など安全に生活ができるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人・ご家族に希望を聞き、かかりつけ医(主治医)を変える事無く継続できるよう受診の付き添いをグループホームで行っている。主治医には相談をし、情報共有することで連携を図っている。 | 入居以前からのかかりつけ医・関連病院に通院している。医療機関との情報交換には、独自のサマリー用紙を作成し活用している。受診は町以外からの利用者については家族に依頼し、他は職員が送迎している。受診結果は家族に伝え、ノートに記載し全職員で共有している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師に身体状況を伝え、常に共有している。必ず相談し助言を受け、必要と判断された時は速やかに受診をしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院された時には医療機関に面会に行き、メンタルケアを行い、身体状況の確認を行う。情報交換をし、早期退院ができるように努めている。医療機関との関係性が保てるよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期のケアについては、入所時に説明を行い、明確化している。重度化した時の話し合いは常に行い、現状の身体状況を共有し、医療機関とも連携を図っている。 | これまでに、1例の看取りを経験している。職員は終末ケアについて前向きに考えており、関連病院にたびたび交渉しているが、協力が得られていない。今のところ、家族には終末ケアについて説明し、かかりつけ医との連携は良好に保たれている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生時の応急処置に対応できるよう、勉強会(心肺蘇生術やAED使用方法)にて実践力を身に付けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害時には速やかに避難誘導ができるよう年2回(春・秋)の訓練を実施している。(1日に時間を変えて日中の訓練と夜間を想定した訓練を2回実施)避難場所の確認、地域住民の協力依頼も行っている。 | 運営規定11条にある具体的計画を密に作成し、年2回の訓練が実施されている。運営推進会議に消防署も参加し、良好な連携がとられている。地域の協力体制ができ、過日浴室の温泉の湯気を見て近所の人が通報し、町内放送が流れて、大勢の人が駆けつけた。十分な量の備蓄も整えられている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人一人の人格やプライバシーを尊重し、「尊厳とは何か」学ぶ機会を設け、職員教育を行っている。その人らしい生活が送れるよう声掛け、支援を行っている。 | 施設長が講師となり、認知症やプライバシー・尊厳・拘束などについて積極的に勉強会を開き、一人ひとりの人格を尊重し支援をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の希望や思いを知り、叶えられるようコミュニケーションを取り、支援している。日常生活支援の中で必ず選択肢を設け、自己決定できるよう努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員都合で物事を進めず、利用者様の希望を踏まえ、利用者様のペースにあった生活を送れるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 受診時・外出時には声掛けをし、その日着る衣類を自ら選択していただき、身だしなみやおしゃれができるよう支援している。男性の場合は、髭剃りを日課とし、服装も好みにあった物を着用できるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 汁物は3食、利用者様と一緒に材料を切るなどの下ごしらえ・味見を行い、食事の準備を行っている。食後の片づけも利用者様と一緒にやっている。 | 献立は業者に依頼し、食材はスーパーに週2回ファックスで注文し、利用者と職員で下ごしらえをしている。共用スペースには一般家庭のようにダイニングがあり、食器戸棚が置かれて、職員が調理をしている。それぞれのスペースで会話をしながら食事をし、利用者も後片づけもしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量・水分量は毎度記録に残し、常に状況を把握している。栄養バランスは主治医に相談している。個人の食生活習慣に応じられるよう共有し、統一した支援をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後に声掛けをし、介助が必要な方は職員対応にて行う。夜間帯に義歯を職員が預かり、洗浄・消毒をし、衛生管理に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行っている。 オムツ使用の方は時間を決め、定時に交換している。トイレが間に合わない方は、居室にポータブルトイレを設置し、失敗の数を減らしている。 | 排泄チェック表でパターンを把握し、トイレ誘導している。9ヶ月で改善が見られたり、リハビリパンツやパットの使用で入居時より改善されたり、常に自立に向けた支援が成されている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 軽い運動行い、繊維質の多い食材・乳製品を召し上がっていただき、便秘予防に努めている。主治医に相談し、薬にて対応も行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 日曜日以外は週3回入浴できるよう、一日置きの入浴支援をしている。体調やその日の状況により、利用者様に合わせた支援を行っている。 | 温泉街にある事業所とあって、お風呂は24時間かけ流しの温泉である。週3回の入浴としているが、受診などで入浴日に入れなくても、いつでも状況に合わせて支援している。季節の菖蒲湯等も楽しんでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者様の生活パターンを尊重し、就寝時間を決め、更衣介助をしている。日中は、利用者様の希望に応じて休息をしていただいている。天気の良い日には布団を干し、気持ち良く眠れるように努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 目的・副作用・用法は、服薬情報を把握できるようファイリングし、全職員が共有し支援している。症状の変化時には、主治医に相談し指示を頂いている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴や趣味を把握し、日常生活の中で楽しみの時間が持てるよう個別の支援を行っている。畑作業や食事作り他、様々な活動に取り組んでいる。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 職員で対応不可能の場合は、ご家族に協力を頂いている。お祭りやイベントに参加できるように連絡調整し、対応している。 | 季節の花見なども時には出かけるが。山間部の土地柄もあり11月から3月までは厳しい寒さとなるため、散歩等は難しい。暖かい日には、ベランダに出たり、イベントなどで楽しめるよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現金は利用者様・ご家族様の同意の上で事業所の金庫にお預かりし、必要な時には預り金よりご本人様に渡し、支払していただくよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙を書く事は少なく、届いた手紙が返信できるよう支援している。電話は自由に掛けられるようにし、ご家族からの電話も速やかに取次ぎし、支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 今まで使用されていた物や馴染みの物を居室に持ち込んでいただき、居心地良く過ごせるように工夫し、支援している。 | 一般家庭と変わらない雰囲気の中で、利用者同士が会話をしている。2ユニットで、隣り合わせで行き来が出来るようになっている。壁面には見事な手づくりの壁画が飾られており、利用者の作品も多く見られる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用フロアの空きスペースにソファやベンチを置き、一人の時間が出来たり、気の合った利用者同士で談話を楽しんだり、思い思いに過ごせる場所を作っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 今まで使用されていた物や馴染みの物を持ち込んでいただき、居心地良く、過ごせるように工夫し、支援している。 | 使い慣れた家具や仏壇が置かれ、家族の写真や大切な置物などが置かれている。居室は掃除が行き届いて、窓からは日が差し込み明るく、温泉街の建物がみえている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレの位置・ご本人の居室等は、わかりやすい大きさの文字で表示し、背丈に合った位置に掲示している。動きやすいように安全を確保し、自立した生活が継続できるように工夫している。 | | |